

令和6年度小城市子ども・子育て会議（第4回） 議事録

- 開催日時 令和7年3月25日（火）午後6時30分～午後8時15分
- 開催場所 小城市役所大会議室（西館2階）
- 出席委員 山田会長、草場委員、高山委員、金田委員、庄島委員、船津委員、勝原委員、田中委員、古川（教）委員、八頭司委員、圓城寺委員、鳥越委員、嶋田委員、永田委員、小林委員、園田委員（計16名）
- 欠席委員 古川（明）委員、永松委員（計2名）
- 事務局 池田福祉部長、田中教育部長
社会福祉課：久保課長、原副課長、土井子育て支援係長、原田主査、村岡主事
健康増進課：右近課長、辻母子保健係長、淵上保健師
保育幼稚園課：於保課長、南里副課長、松尾保育幼稚園係長
教育総務課：西課長、嘉村副課長、古川学事係長
- オブザーバー 株式会社 ギョウセイ 1名
- 傍聴者 0名

【会議次第】

1. 開 会
2. 部長あいさつ
3. 議題
 - (1) 小城市こども計画について 資料1
 - (2) 小城保育園の運営について 資料2
4. その他
5. 閉 会

1. 開会
会議の出席者数等を報告（条例の一部を読み上げる）

2. 部長あいさつ
（池田部長）

皆さんこんばんは。

福祉部長しております池田です。よろしくお願いします。

本日は年度末のお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今年度の子ども・子育て会議では、こども計画の策定について協議をしていただいているため、今回で4回目の会議となっています。

こども計画につきましては、委員の皆様からご意見をいただき、パブリックコメントが終了しまして、こども計画案としまして皆様のお手元にあるかと思います。

国が定める「こども大綱」では、「こどもまんなか社会」の実現を目指しております。

また、今回策定します小城市こども計画では、「こどもが自分らしく笑顔で育つまち」を基本理念に、「こどもは、小城市のたから」をキャッチコピーとしております。

計画期間は令和7年度、来年度から5年間の計画となっておりますが、計画を推進していくにあたり、庁内においては、関係部署と連絡調整を図りながら横断的に取り組みを推進して参りたいと思っております。

しかし、子育て支援は行政だけで出来るものではありません。地域における様々な分野での関わりが必要となってきます。家庭をはじめ、幼稚園、保育園、認定こども園、学校、地域活動団体や関係機関との連携、協働により、計画の推進に取り組んでいく必要があると思っております。

計画は作成して終わりではなく、今後の取り組みが重要になってくると思っておりますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

本日の議題は、こども計画についてと、小城市保育園の運営についての2点となっておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議題

議事について、進行を事務局から山田会長に交代。

(1) 小城市こども計画について

資料1

事務局：資料1を用いて、主に前回会議からの修正点等について説明を行う。

会 長：今説明があった分について、もうちょっと詳しく聞きたい箇所等あるか。

委 員：「こどもを守る地域ネットワーク強化事業」のところで、要保護児童対策地域協議会とあるが、この協議会はどのようなものか。

また、CAPプログラムでは、どういったことを行っているのか。

事務局：要保護児童対策地域協議会につきましては、虐待を受けているこどもや支援が必要な家庭に対して、複数の関係機関が集まり、それぞれのケースに合わせた支援等を協議検討する協議会である。

CAP プログラムについては、児童の権利保護や虐待の早期発見にむけて、児童・家族・教員に対し、それぞれの年齢層等に合わせたワークショップを実施している。

会 長：現在未実施の事業について、今後検討協議していくとのことであるが、市単独で行うのか、他市と合同、或いは、県の方が広域で考えるのかイメージが付きにくい状況と感じる。これは全国的な動きでもあるので、先進地の事例等を見ていく必要があるように感じる。

委 員：小城市で未実施となっている事業について、今後の方向性が不明な部分があるが、市内には、こども支援を行っている支援団体がたくさんあるので、そうしたところと協働で事業を進めていってはどうか。

委 員：国の方から指導等があって、こうした計画を作成し事業を進めていくとなっているが、こうした事業を行っていく上で、表に出てきていない問題がたくさんあるように感じている。こうした問題の本質を解決していかないと、計画と実際の事業の成果に大きな乖離が出てきてしまうのではないか。

事務局：こども計画については、こども家庭庁が定めた「こども大綱」を基にした、理念的な計画となっている。委員ご指摘の課題については、市の支援が届いていない部分についても認識をしているところである。未実施の事業を含めて、これからの進捗管理を行いながら、こうした課題解決に向けた取り組みを進めていきたいと考えている。

委 員：ネット上、実社会のいずれにおいても関係性の希薄さといったものが様々な問題の発生のおおもと、要因である様な気がする。社会そのものが変化してきており、こうした部分に手を入れないと、事業がうまく出来ないような気がしてならない。

会 長：民生委員や地域自治会でも同じような問題が出てきている。解決するためにいろんな方が小さな努力を少しずつずつとしていただいているのは間違いない。

しかし、なかなかそれが形になっていかないという部分も感じている。
事務局：少し時代も変わってきてるのかなと私たちも感じてるところである。
こうした時代の変化も踏まえた上で、児童との関わり方や子育てに悩みや不安を抱えている保護者や児童に対して、今回の事業を通して解消が図られるように取り組みを検討したい。
会 長：今回の計画について、「小城市こども計画」の承認をいただけるか。
委 員：はい。（出席者全員承認）

(2) 小城保育園の運営について

資料 2

事務局：資料 2 を用いて、主に小城保育園の民営化について説明を行う。

委員から質疑等は特になし

山田会長より事務局へ進行を交代

4. その他

機構改革によるこども家庭課（こども家庭センター）及び健康福祉課の概要及び担当業務の役割等について事務局から説明あり。

5. 閉会

